

第5回 大津市立幼稚園再編等検討委員会 議事録（要旨）

- 1 日 時 令和7年12月25日（木）13時30分～16時05分
- 2 会 場 大津市役所 本館4階 第4委員会室
- 3 出席者 委員 中井副委員長、井上委員、大橋委員、狩野委員、小森委員、佐竹委員、
中森委員、早藤委員、藤井委員
（欠席）山縣委員長
事務局 こども未来部長、こども未来部次長
こども・若者政策課長、課長補佐、政策推進係係長、政策推進係主査、
政策推進係主任、幼保支援課長、幼児教育指導監、保育指導監、
市立幼稚園園長

4 傍聴者 2名

5 議 事

（1）大津市立幼稚園再編等計画の策定について

6 会議録（要旨）

（1）議事

※議事の公開・非公開については、部分公開とされる。

副委員長 ： まず最初に前回の振り返りを事務局から願います。

事 務 局 ： 資料に基づき説明

副委員長 ： 只今の事務局の説明について、質問や意見があれば、発言をお願いします。

～特になし～

副委員長 ： 次に、計画素案について、事務局から説明をお願いします。

事 務 局 ： 資料に基づき説明

副委員長 ： 只今の事務局の説明について、質問や意見があれば、発言をお願いします。

副委員長 ： 資料1の13ページのところで、健やかに育つ環境と質の高い幼児教育・保育環境の充実というところが新しく付け加えられた。この考え方の根底には、幼児教育という捉え方をどうしていくのか。幼稚園だけでなく、多種多様な施設の中での、いろいろなことを考えた上での幼児教育のあり方、これをどうしていくのかということが付け加えられたのではないかなと思うが、公立だけでいうと幼稚園も保育園も新規採用としては今年から試験が一緒になって、来年度から新たなスタートをしていく。そういうことも鑑みながら、大津市全体の幼児教育をどうするのかというところにポイントが置かれているのか。それとも、そこまで深くは考えていないか。

事務局：今後の幼児教育というか、これは今のこども・若者支援計画の中で出てきている、子どものための大原則という、目指していくところのビジョンである。こちらの計画で幼児教育をこういうふうに持っていくというよりは、大津市全体として、このビジョンに基づいて、これを目指して子どもたちのためにやっていく、それに従っていくということ。

委員：今の話に関連してなのだが、私もこの付け加えてくださったことはとても良くなったなと思っている。とてもコンパクトに、上手に、素案23～24ページで幼稚園教育の良さを言っておられることを踏まえながら、25～30ページあたりにうまく入れてくださったなとは思っているが、今、副委員長が仰ったのと同じようなことを思っていて、公立私立の幼稚園保育園に関わらず、どこにいてもこういったことを、例えば25ページ真ん中あたりに書いてある、「教育・保育の提供体制の確保や教育・保育施設などに従事する職員に対する研修など、本市の就学前の子どもたちにより良い教育・保育を提供できるように取組を推進しているところです」なのだが、「ところです」で終わらずに、公立私立関係なく、研修なら研修をしていく、この幼児教育の大切さを伝えていくという場が必要になってくるなと思っている。そこに市がどれだけ踏み込めるのか。踏み込んでもらわないといけないと私は思っているが、どれだけ踏み込んでもらえるのか。一緒にするとやったものの、やはり私立さんは難しいですとなると、市としての幼児教育、就学前教育の方針っていうのが定まらなくなってくと思うので、そのあたりは、やはり力を入れて、規模適正化の計画が出された後も、継続して力を入れていっていただきたいと思う。

というのも、私は今、小学校が本当に危機的状況だと思っていて、30数園から来ているのだが、いろいろな園から来ている子どもたちを見ていると、園との引き継ぎや園との懇談をさせてもらおうと、その園の様子がよく見える。

大体4パターンかなと思っているが、本当に今までの公立園のように、学校と一緒に子どもを育てていこう、同じところを目指して教育をしていこう、引き継ぎをしていこう、それは一人一人の子どもたちの引き継ぎもそうだけれども、園と学校の教育というのは、直結している。園での保育は、学校の教育と繋がっている。園でやってきたことが、即、学校の国語や算数、図工とか音楽もてきめんだけれども、国語や算数や理科というところに繋がってくるし、それは中学校教育も一緒だと思うが、そういうところを分かって、保育園幼稚園で教育してくださっているかという、4パターンと言ったのは、そこを本当に一生懸命してくださっていて、個別に一人一人の子どもたちのことも一生懸命してくださっているという園が1パターン。

もう1つは、一生懸命やりたいとは思ってくださっているけれども、人的なこととか、

環境的なこと、場所がないとか、いろいろなことで、なかなか難しい、でも一生懸命思っているよと言ってくれる、熱心に引き継ぎとかをしてくださる園。

もう1つは、確かに一生懸命していると思うけれど、子どもの教育や保育に対して、本当に言い方が悪いけれど、偏っているなって思ったり、あることに特化してすごく教え込むというか。本当にその子どもたちの育ちのことを考えていない訳ではないのだろうけど、それだけやっていたら良いのではないでしょう、もっと心のところも繋ぎはあるでしょう、友達関係とか、そういうところにも力入れてほしいなとか。熱心なのだけれど、ちょっと思いが違う園。

最後は、本当に預かってくださっているなというところ。何が大事なのだろうと。大事にしていることはあると思うのだけれど、追いついていないというか、なかなか引き継ぎもままならないという。

いろいろな園が見えてくるというのを、やはり今、大津市でこの公立幼稚園がされてきた大事なことが広まるように、いろいろ架け橋プログラムでしてくださっているけれども、そういうのを市として広めていくよ、一緒に研修しますよというような、よその園へ見に行きますよとか、市と一緒にやってくださいねというようなところに、どれくらい踏み込んでくださるだろうなというのを思っている。

というのも、小学校は、先ほど教育や保育は繋がっていると言ったのだが、今年度、第4期教育振興基本計画というものが出ていて、そこにも保幼小連携とか、子育て支援も頑張らましようとか書いてある。その中で、やはり小学校児童にどれだけ力をつけるか。力をつけて、力を引き出すためにこれだけのことを頑張らましようっていうことが、この基本計画に載っているのだが、それに基づいて、私たちは、大津市がそう言っているのだから先生たちも頑張らましようねって学校で言っていて、それを先生たちも受けて頑張ってくれるのだけれど、そこに入ってくる1年生がもうでこぼこでは、本当にやりにくいし、なかなか力も引き出しにくくなっている。

だからやはり、幼稚園教育、就学前教育が大事だなと。今までは、大半がその小学校についている公立幼稚園がそこを担ってくれていたんで、大勢の子がいて、あとは少数派だったとか、熱心な幼稚園保育園さんがいてくださって、学校と一緒にして下さるところが何園もある学校は、そこが大きな括りだったので、その子どもたちがいろいろなことを学んで学校に来てくれるので、小学校教育が成り立っていた。

30数園から来て、もう小さいところもいっぱい、今まで大きく占めていた園の園児さんの数がぐっと少なくなってくると、その子たちの影響も少なくなってきた、なかなか良いことも広めにくくなっていて、一つ一つに対応していかないといけないような状況。そういうところが、やはり大津市として、市の力で何とかしていただきたい

など思っているところ。

委員：今、仰ったことは本当に大切なことだと思う。特に、特化しているとか教え込むとか、子どもが非認知能力を養っていった、主体性をどんどん発揮していくためには、やはり教え込むよりも、ある程度自由に遊ばせる、その自由な中で、もっと遊びたい、もっとやりたい、もっと知りたい、もっともっとを出していけるような、そういう環境設定、人的環境、物的環境、そこがすごく必要になってくるのだろうと思う。

そのためには、時間とお金をどこにつぎ込むかということがすごく大事だと思うし、保育のバランス、教え込むときは教え込むし、遊ばせるときは遊ばせるし、きちっとさせるときはきちっとさせるし、でもゆったりさせて、自由にさせるときはゆったり自由にさせるし、そういうバランスのもとで保育していかないと、特化しすぎると危ないんだなということは、常日頃意識しているところではある。

でも、大津市の保育協議会でも、各会員園の皆さんを募って月1回ほどいろいろな研修会をしているのだけれども、会員にならない園もあって。せいぜい各園から1人、2人、3人研修会に出てくださるのだけれども、年1回程度であったりとか。ただ、出てくださる園は、大体意思統一はできていると思う。大切なことは何か、子どもの保育に対して、大切にしていけないといけないことは何かっていうことは、大体分かってくださる。でも出てこれない園さんは、園の中でどうなっているのだろうと、ちょっと不安になることは多々ある。

委員：いろいろな特色を持つ園がかなり増えたので、今仰ったみたいな問題が生じやすくなっているのだなというのは、改めてお聞きして思った。

そこに加えて、支援が必要なお子さんがかなり増えたようなイメージがある。なので、それぞれの園の人員配置とかもあると思うが、できるだけ手厚く子どもを見ようというふうに配置したり、それを保護者に伝えたと、やはりそのような大きな集団に不安を持つ保護者の方が、入園させたいと思って来られるケースが増えてきたと思う。そこと小学校との繋ぎみたいなものもすごく難しい問題で、小学校の支援級とかに繋がれたら一番良いのだけれども、なかなかそのあたりの理解まで、園の間で保護者にどこまで勧めるかっていうのも、いろいろ需要の問題とかもあるのだけれども、かなり難しいケースもちらほら増えてきているという状況である。

私は他の小規模でされている新しくできた園の中の保育がどんなものかがちょっと分からないが、本当に子どもが自分で選んで遊ぶ、そういう経験と、自分が選んだ遊びで遊び込む経験というのが、子の心を育てていくことに繋がるというのが幼児教育だと思っているので、その時間を他のものに特化して、何か今それしなあかんのっていうことをするのは、どうかなというのは思ったりする。

そのあたりを、先ほどあったみたいに、市の方が旗振りというか、統一性というか、幼児教育の何が大事なんだっていうのを、もう一度先導というか、そういうのをしているただくのがいいのかなと思う。

副委員長：保育業界ほど多種多様な施設類型と、一応国から示されている幼稚園教育要領とか保育所保育指針とか、認定こども園の教育保育要領に基づいてするというふうにはなっているが、独自性とか、建学の精神とかいろいろなことがあるので、なかなか全国どこでも、全てがみんな統一されているわけではない。ここにあって挙げてくださっているということは、こども・若者支援計画の中の、子どもの教育・保育の充実をということで、ここでは再編の協議なのだけれど、その先には、そういう一緒になっていったり、調整されたり、質の向上に向けて何らかの手だてが行われるということを期待しているのか。

事務局：素案25ページのところで、最初に言っていた「推進しているところです」という表現のところで、架け橋期の園から学校への繋ぎがとても大切であるということを書いていただいた。

資料1の説明の際に素案の27ページに追加したと説明した部分になるが、ここが大事なことというのは、しっかり意識しながらこの素案を作っていきたいと思っている。そういうところも踏まえて、この25ページの表現を、大津市としての意思表示をはっきりした形で見直したいと思う。

委員：特化しているのが悪いわけではないのだけれど、でも幼児教育としてこんなことが大事なんだよっていうのを、研修等で広まればいいなと思う。

もう1つは、今、私は子どものことを思ってずっと話をしてきたが、保護者のことを思うと、保護者の中にも、働いていて預けることが大事と思っておられる方が増えてきた。けれども、やはり幼児教育をきちんとしてほしいと思っておられる方はたくさんおられる。それは学校に来られてもそうなのだけれど、その教育っていうところに熱心な方がたくさんいてくださるので、そういう啓発も大事かなと思う。

もう1つは、今一番気になっていて、公立幼稚園で働いておられる先生方のことは再編にはあまり出てこないが、今、働いておられる先生方は、きっと幼稚園の先生になりたいと思ってなられたのだと思う。幼稚園免許と保育士資格が違うので、同じ幼児教育・保育なのだけれど、やはり幼稚園の先生、幼稚園教育をしたいなと思ってなられた。けれど、聞くところによると、今、そこの給与形態とかも変わってくるというのがチラッと耳に入ったりして。今回の採用試験のことを聞くと、今年から一体化で採用されて、その人たちはそれを承知で受けておられるので、幼稚園に行くか、保育園に行くか、どちらか分からないなと思っておられると思うのだけれど、今幼稚園におられ

る方は、幼稚園にいられるのだろうかとか、給与も変わってくるんだなとか、いろいろな不安をお持ちだろうなと思う。

この再編に私は関わっていると思うのだが、再編どうしますかっていうときに、その話とは別なのかもしれないので、あまり出てこないのだが、その方たちのモチベーションであるとか、不安であるとかを考えると、ちょっと気にはなる。そのあたりは、この再編とはもう別となってるのだろうかというところが少し気になっている。

副委員長：この中には人的管理のことは上がっていないが、もし補足的にお答えいただけたら有難い。

事務局：この計画を推進している所属で、職員の給与のところを何かしているわけではないけれども、当然働いていただく職員さん、計画を策定してそれに基づいて再編され、その後働いていただく職員の方はとても大事。ただ、計画とその職員の処遇は、今は分けて考えているところである。なかなかそのあたりをどう盛り込むのかというところは、今ぱっと言われてすぐには答えられないというようなところである。

副委員長：この中身の検討の内容が違うので、当然それは人事の問題だろうと思うが、働くという意味では、質が担保できるというのは、そこで働く人たちが仕事に前向きにならないといけない。だから、そういうのも、ここには出てこないけれど周辺部にはある、という意識だけは持っていただけたら有難いなと思う。

なかなか言いにくい、貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。

委員：今のお話を聞かせていただいて、先生の給与体制とかの変化は、私も、まさに質に繋がるので、関係なくはないと思って聞いていた。それと、その前に副委員長が仰った、今度から採用試験が同じになっていくのがもう決まっているということを聞くと、それは、大津市は、こども園とかに合体していくのか、全部をどうしていられるのか、一般市民として、先にそんなことを考えてくれているのだろうかと思ってしまったのだけれども。

試験と一緒にされることの目的についてお答えいただきたいなと思う。

副委員長：もう一緒に採用されているので、将来的にはビジョンとして、そういうものが考えられるのか。

事務局：統一採用については、就学前教育ということで、保育園でも幼稚園でもどちらでも働いていただける方を採用するというのが1つの目的である。

また、待機児童が発生しているということもあり、流動的に人事異動ができるということも目的とさせていただいた。

実は、この統一採用については、他都市では、ある程度、既に一般的になってきており、大津市はどちらかと言うと後発の方になっている。

事務局：先生方の処遇的なお話だったので総括的なお話をさせていただくと、今仰ってくださったような人的な話のことを、こちらの計画の中で、我々が触れさせていただくとするならば、先生方のスキル研修でスキルアップをするとか、モチベーションのアップとかは我々の方で語れるところであり、我々の責任でやるべきだと思う。

ただ、人事関連的な部分、処遇の部分というのは、我々の権限ではなく他の部局の権限のところであり、範疇外になるため、この計画の中で我々サイドが決めていくのは難しいかなという部分である。

我々の所管の中で、先生方のことについて対応できる部分は書かせていただくことはできるが、やはり処遇面というのは所管が違うところであり、どうこう言いにくい部分があるので、一定線引きが必要であるというところをご理解いただけたらと思う。

委員：1点、ここどうかなと思うところがあるので、皆さんで考えていただきたいと思うのだが、資料1の14ページの「これからも大切にしていきたい、大津市が目指していきたい」というところの4番目に、「同年代」が入っているのだが、園によっては、これからいろいろな保育のあり方があるとしたら、もしかしたら縦割りみたいなこともあるのかなと思うと、ここを同年代と書いてしまうことによって、少し動きにくくなるのではないかと感じた。

あと、先ほど研修のことでたくさん素敵なお意見を出していただいて、とても私たちとしては有難いと思っている。ただ、研修というのは、本来、自分たちが学びたいという気持ちが湧き出ることがとても大事だと思うので、働きがいということとも絡まって、上意下達な研修ではなくて、自分たちが学びたいことが学べるような研修、そういうことができるような、ハード面であるとか、ソフト面での仕組みづくりがとても大事になるし、これまでの公立幼稚園がやってきたノウハウを生かしながら、自分たちで自分たちの保育について考え、高め合えるということが、保育の質を上げていったりとか、働きがいを感じていくのにとっても大事だと思う。

副委員長：14ページのところの「同年代の子どもとの集団生活」と限定しているのがどうなのだろうというご意見については、これは再編ということなので、異年齢でも実際保育をして遊びをしているのだけれども、磨き合うとか、切磋琢磨できるという意味で、1学級何名と限定しているので、同年代ということが意識的に書かれているのかなと思う。私はそう解釈しているが、事務局の考えはどうか。

事務局：確かに再編の計画というところがあるので、再編するにあたっては、一定の集団規模を確保するというところを、事務局としては非常に意識しながら作らせていただいているので、こういう表現になっている。

ただ、こちらについては、これからも大切にしていきたい、目指していきたいところと

ということなので、再編という狭いところの範囲でなくても良いかなと思っている。どうしても再編を意識した書き方になってしまっているが、もしそのあたり、これからの幼児教育はやはり異年齢との交流とか、そういった関わりも大事だということであれば、ご意見いただきましたら、こちらの方で再検討できるかと思う。

副委員長：「同年代の子どもとの」というのを取ってしまって、「集団生活を営む場が」というところから入っても、どうとでもとれる。

事務局：1点補足させていただくと、方針を書かせていただくにあたり、やはり集団生活を送りながら、切磋琢磨等をしながら社会的態度を身につけていく、子どもが少しずつ成長していく、ということを当然意識させていただいているのだが、併せて、幼稚園教育要領にもこの文言がそのまま書かれている。

一方で、異年齢での交流というのも非常に意義がある、大切であるということも、この解説の中には表記されている。

そういう意味合いで書かせていただいたものにはなるが、どうさせていただいたら良いか、またご意見をいただけたらと思う。

副委員長：これからも大切にしていきたい、大津市が目指していきたいことですよね。

1回目の再編が終わっても次々と2回3回と繋がって、最終的にはどうなるのだろうという不安もあるが、これがずっと生きていくということであれば、再編という意味からでは、同年代があった方がいい。同年代の育ち方と、異年齢で育っている育ち方は全然違う。やはり同年代というのはものすごく大事で、本当に真剣に物に向き合える子ども同士の関係が育つので、必要だと思う。解釈の仕方がいろいろあるので、別にこれがなくても集団生活の場がっていうところには繋がっていくかなと思うけれど。

また考えていただく1つの要素にさせていただけるか。

事務局：今仰っていただいた意見を参考に、ここの表現をどうするか、また、素案の中の文章に反映できるかどうか等も含めて、一度検討させていただく。

委員：市立幼稚園は地域に育てられているという言葉があると思うのだが、市立幼稚園は地域との長年の関わりを通して、子どもたちも日々成長しているし、幼稚園自体も成長しているのかなと思っている。

節分祭では、今はPTAの方で鬼になって豆まきをしている。こういう行事であったり、敬老会の方が船づくりをしてくださったり、山に引率して、体験された方が子どもたちに直接教えてくれることで、また子どもたちの伝わり方も違っだろうし、こういう地域の関わりも大事だなと思う。

あと、焼き芋大会をしているが、これも薪から切って、薪割りからして、子どもたちと一緒に焼き芋大会を盛り上げている。もう80、90近いおじいちゃんおばあちゃん

たちも、その子どもたちと触れ合うことで生気もみなぎってくるというか、子どもたちはやはり可愛いなみたいなことを日々言ってくださっているのです、こういう地域との関わりも、1つの園に対して2つ3つになっても、各地域を大事にしてほしいなと思う。

こういう関係づくりによって、自分たちの住んでいるまちが好きになって、将来またこのまちに戻ってきたいなと思ってもらえる。

将来の子どもが大きくなってからの未来を見据えた幼稚園教育が、続いてくれるといいなと思う。

副委員長：最初の会のときに委員からも仰ってくださったように、公立幼稚園は地域と一体化されているのですよと。だから、この内容を引き継ぐためには、再編されていったらどういうふうにしたら良いのかということを考えますということを仰ってくださったと思うのだが、それは、どうやって繋いでいくのかとか、人との繋がりとか、文化の繋がりとか、今は人間関係が希薄になっている中で、そういう関係性を繋いでいくということが、やはり公立幼稚園、幼稚園教育の中にはあるということ。

頑張っ、て、こ、う、い、う、ふ、う、に、繋、が、っ、て、い、く、よ、う、に、再、編、を、考、え、て、い、き、た、い、と、思、う、。

委 員：今やっておられることを見せていただいて、もう無くなった園でも当然やっていた。クリスマスにはお年寄りの方がサンタさんになって、プレゼントも配りに来てくれていたし、田んぼをレンゲ畑にして、子どもたちが遊べるように、ちゃんとしてくれる、そういう地域があった。でも、もうそれが再編されてしまっているのです、そういうところに大人が集まらない。

また、お父さん、お母さん世代が、子どもたちにこれだけしてくれる地域をやっぱり大切にしなあかん、役をしていかなあかんっていう思いがそこで育っていたのだけれども、それがなくなっている。本当に悲しい。

なので、少しでも残していけるような再編を考えていってほしいなと思う。

副委員長：再編された園も、先ほど事務局の方から仰っていたけれど、どここの竹をわざわざ持ってくるとか、これは園長の姿勢だと思うのだけれど、やはり再編された中に、いかにそれらの人たちが集まってもらえるような、教育・保育を構築するかっていうことがとても大事だなということを、改めて感じさせてもらった。

こういうことが残るように頑張りましょう。

委 員：素案27ページに「教師の資質・能力の向上」とある。事務局のお話で給与体系の話も出ているが、やはりここは再編という部分も念頭に置きながら、幼稚園で園長以下職員さんの資質向上と、ただ単にこういう文言で研修をすとかではなくて、一例を挙げると、地域があつての園だとか、そういう部分は地域の人が園を応援しようじゃな

いかという力があるのだから、地域が話を持って行っても、園長や市の職員の先生がいるからという部分がある。記述はこれでいいと思うのだが、もっとそれに加えて、園を超えてという部分を記述してもらって、市民の皆さん方がこういうものを読んで、それだったらと底上げするような部分をちょっと考えてほしい。そういったものを入れていただいて、園のモチベーションが上がる、これから預けようかというお父さんお母さんの気持ちもそちらに向くような形に文言を加えてほしいと思う。

副委員長：聞いていただいたモチベーションを上げていくとか、保護者の立場になってそのことを深く受けとめて、記載していくというようなことも入れていただけたらと思う。それでは、ウの方の市立幼稚園の園児数の推移及び特徴についてということで、事務局から説明をお願いします。

事務局：ウ)市立幼稚園の園児数の推移及び特徴について、事務局から説明

副委員長：星印の数はいくつぐらいあるのか。

事務局：33になる。

副委員長：公立保育園は現在いくらあるか。

事務局：12園です。公立のこども園が1園です。

委員：待機児童の問題で、図に書いてあるこども園等は結構いっぱいいっぱいなのかなと思う。申込みがたくさんあるけれど先生の数を見ると、いっぱいいっぱい受け入れられないので、こども園の幼稚園の部分のところの数を減らすみたいな話も聞いたりする。そういうところで、幼稚園を選ぶとなると離れたところまで行かないといけない。何か行き場のないような話が出ているけれども、待機児童との兼ね合いは何かあるのか。資料をお願いできるのか。

事務局：少しお時間いただきたい。考えさせてもらう。

副委員長：待機児童や施設の関係ですね。認定こども園のところでも、1号認定よりも2号認定がもちろん多い。

委員：減っているか聞くと、減っているわけではなく、多くの申し込みがあるけれど断っている状態だと返事があった。何かしっくり来ないと思った。

副委員長：断られても、親が就労していると幼稚園には行きにくいですね。

委員：どっちもいっぱいいっぱいというところで、地元で育てたいはずの人が入れない状況である。

副委員長：保育所の場合は、オール大津で考えておられる。地元とかはあまり関係ない。仕事の関係の近いところも含めて考えないといけない。難しいですね。

事務局：待機児童と申し上げると、1、2歳児である。実際には、今の全体的な児童は減っているということは、ご承知のとおりだと思うが、1号認定の数も現在は減りつつある。

何回も申し上げますけれども、3歳の行き場所の問題ではなくて、今どこかの施設に入ろうということが、就労により、2歳児や、1歳児、場合によっては、0歳児からどこかに入ろうという動きが出てきている。併せて、地域偏在というのは必ずあり、大津市の地域が満遍なく待機児童が発生しているわけではない。

現在は中北部の坂本、唐崎などの地域に待機児童が多い。西分署という消防署のあたりも、もともとは田んぼしかなかったが、その辺りが全部宅地開発されたため、特に集中している状態である。

副委員長：0、1、2歳の待機児童が多いということで、満遍なくではなく地域の偏りがすごくあるというのは難しい問題だと思う。施設が空いていても、そこにはなかなか行けないということもある。今後の検討課題にしてもらえたらと思う。

副委員長：次の項目に入りたいが、再編等の方向性案については、非公開とさせていただきたいと思う。先ほど委員の決議で決まったので、傍聴の皆様方はご退席をお願いする。

～～～ 以降、非公開 ～～～

(2) 閉会

以上